

鉄道車両の輪軸組立作業における緊急点検結果

2024年（令和6年）9月30日
東京地下鉄株式会社

1. 緊急点検結果の概要及び原因

◆緊急点検の対象輪軸

全9路線で約 11,000 軸（約330 編成／約 2,700 両）

◆概要

車輪圧入作業において、圧入力値が社内で定める上限基準値を超過している輪軸が計222軸（※受託車両除く）あることが判明しました。

また、車輪圧入作業時の圧入力値は、機械に自動的に入力される仕組みとなっていますが、一部手動で記録を修正することが可能であり、当該作業の委託先である当社グループ会社において一部数値の書き換えがあったことも判明しました。

※当社が保守作業を受託している他鉄道事業者の車両について

圧入力値が基準値を超過している輪軸数・・・東葉高速鉄道：2軸 埼玉高速鉄道：6軸

◆原因

調査中ではありますが、当該作業委託先の当社グループ会社の社員において、日本産業規格（JIS E4504）で定める値「上限基準値の+10%以内」の記載を背景に、圧入力値の基準値の超過について、一定の範囲内であれば問題ないとの認識があったものと思われます。

2. 当面の対応

◆当面の対応

当社は、銀座線及び丸ノ内線を除く全路線で、車輪圧入作業後に超音波探傷検査を実施しているため、圧入力値が「上限基準値の+10%以内」の輪軸を有する車両（輪軸数220軸）のうち、銀座線及び丸ノ内線を除く全路線の車両（同188軸）については、安全性を確認した上で使用しております。

また、銀座線及び丸ノ内線の車両（同32軸）については、ただちに使用を中止し、超音波探傷検査を実施した上で安全性が確認できましたので、使用を再開しています。

上限基準値に対して+10%を超えた輪軸を有する車両（同2軸）については、ただちに使用を中止した後、車輪嵌替を実施し、現在は使用を再開しています。

なお、本事案への対応として、9月14日（土）に南北線の1運行（白金高輪駅～王子神谷駅間）を運休としました。同日朝の時点では、南北線の当該車両は安全性が確認できていなかったため、運休としましたが、同日中に安全性が確認できたため、使用を再開しています。

これ以降の各路線の運行に影響はございませんでした。

3. 緊急点検後の再発防止策

◆再発防止策

- ・ 検査データの記録について、手動で書き換えができないシステムに改修するとともに、チェック体制及び報告体制について見直します。
- ・ 当社グループ会社における輪軸組立作業全般について、データの取扱いや検査結果の確認方法を厳格に定めること等で作業管理体制を強化しました。
- ・ 車輪圧入作業において、圧入力値が基準値を外れた場合の取扱いを明確化します。
- ・ 関係する当社及びグループ会社の社員へ本事案を周知するとともに、安全の重要性及びコンプライアンスの遵守について再教育、再徹底いたします。
- ・ 本事案以外にも同種の事案がないか、当社内で緊急点検を実施します。